

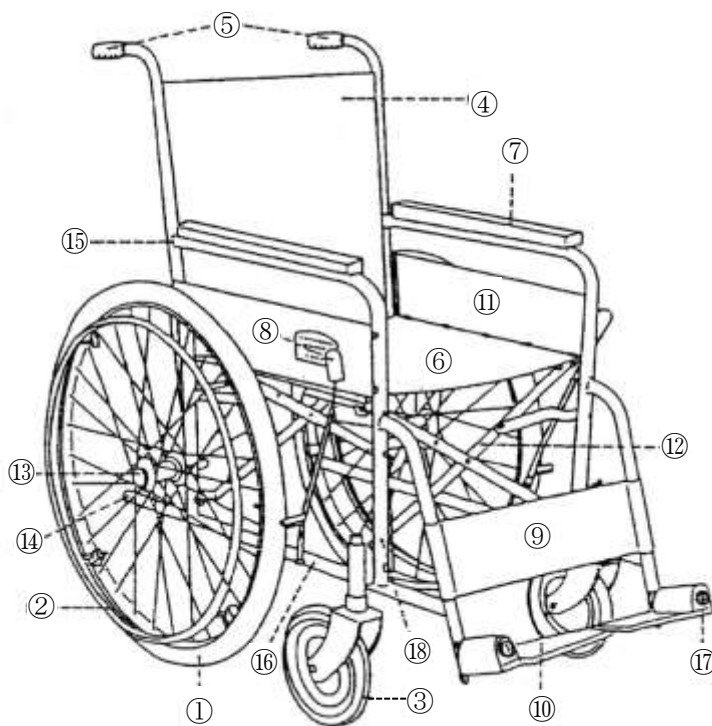
## 8 車椅子，歩行機器について

### 1 車椅子の介助方法について

#### (1) 接する時

- 1) 話をする時は，お互いの目線を合わせる。
- 2) どの程度まで援助したら良いか，先に聞いておく。
- 3) 過剰なことはしない。(自立にならないので)
- 4) 車椅子から手を離したり，車椅子から利用者を移動する場合は，必ず，ブレーキをかける。

#### (2) 車椅子の各部の名称



- ①大車輪 large wheel
- ②ハンドリム handrim
- ③キャスター caster
- ④背もたれ back rest
- ⑤にぎり handle または grip
- ⑥座席 seat
- ⑦肘当て arm rest
- ⑧ブレーキ brake
- ⑨レッグレスト leg rest
- ⑩フットレスト foot rest
- ⑪側板 skirt guard
- ⑫たすき cross rod
- ⑬ハブ hub
- ⑭ティッピングレバー tipping lever
- ⑮バックパイプ back pipe
- ⑯ベースパイプ base pipe
- ⑰バンパー bumper
- ⑱フロントパイプ front pipe

(3) 階段の上り下り

4人で介助することを前提とし、バランスよく両脇、後ろを持ち、被介助者が前向きになるように上り、後ろ向きになるように下りる。



介助者はグリップ、アームレスト、レッグレストのパイプ、ティッピングレバー等の、固定がしっかりした部分を持つ。

※タイヤ、アームレストなど、取り外し可能な場合があるので十分に気を付ける。

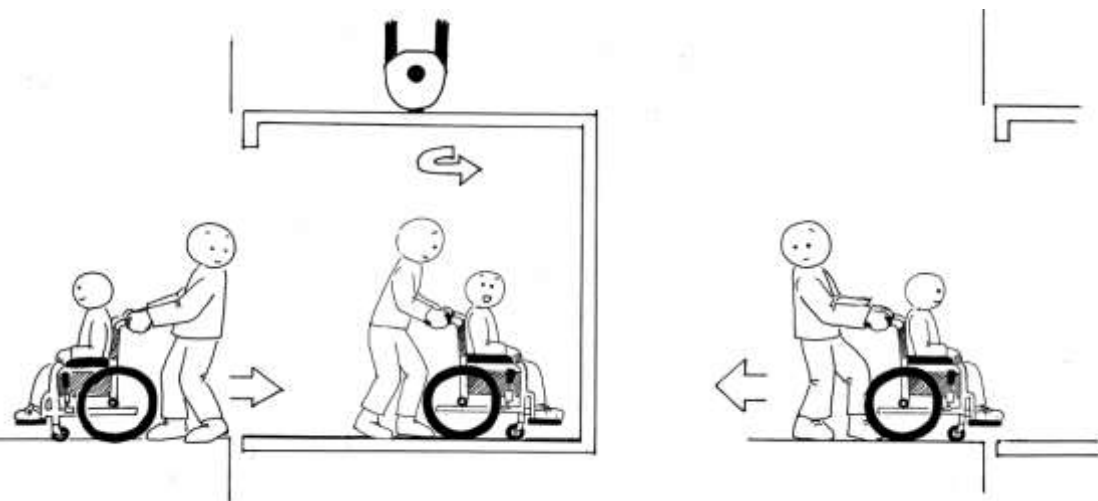
(4) 段差の乗り越え

片足でティッピングレバーを踏みながらキャスターを上げて静かに降ろし、車輪を前方に回転させ、段の上に押し出す。



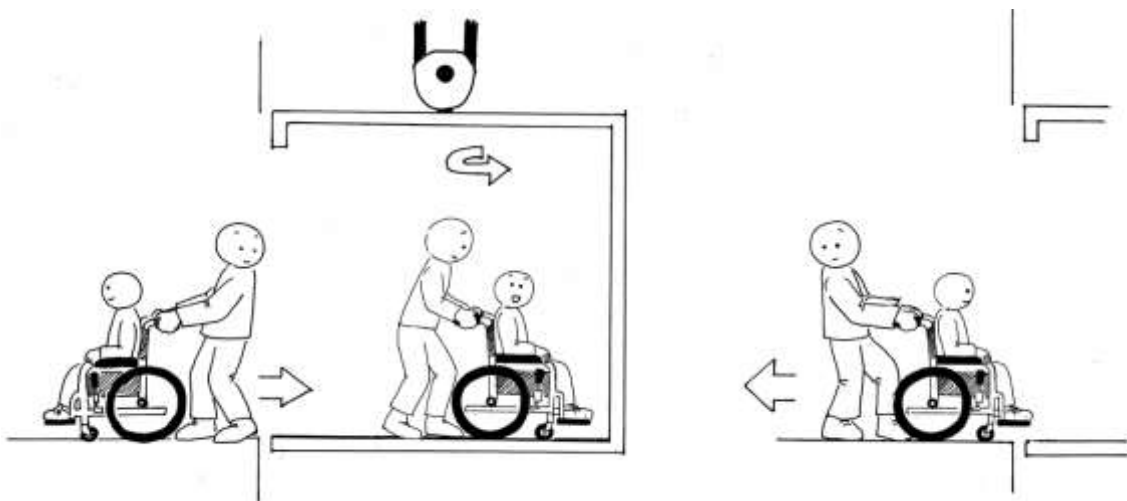
(5) みぞの乗り越え，砂利や砂利道

片足でティッピングレバーを踏みながらキャスターを上げ，そのまま，後輪だけで進む。



(6) エレベーターの乗り降り

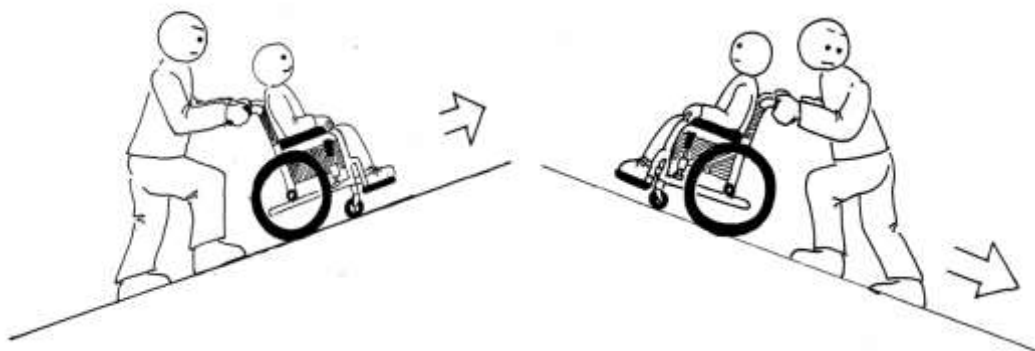
後ろ向きに出入りする。その際にキャスターがみぞに落ちないように，フロアとエレベーターのつぎめにきたら，片足でティッピングレバーを踏みながらキャスターを上げ，そのまま，みぞを越える。



### (7) 坂道の上下り

坂道は、上りは力さえあれば比較的安定するが、下りとはかく転びやすいので、車椅子を後ろ向きにして、以下の点に注意しながら、ゆっくりと、注意深く歩く。

- 1) 下り坂では安全ベルトを着用させる。
- 2) 下り坂では転倒の危険性があるので、急に止めないよう注意する。
- 3) 車椅子の種類によっては、ハンドルまたはグリップのところに介助者用のブレーキがついているものがある。このタイプを使うことを検討する必要がある場合もある。



#### —上り坂—

後ろから少し前傾姿勢で、押し戻されることのないよう、一步一步しっかりと押す。

#### —下り坂—

下り坂では、後ろ向きに、ブレーキを軽くかけながら、一步一步ゆっくりと下る。

(8) 車椅子の折りたたみ方，ひろげ方

1) たたみ方

- ①フットレストを上げる      ②シートを持ち上げる      ③完全に折りたたむ



2) ひろげかた

- ①外側に少し開く      ②シートを押しひろげる。

※ひろげる時，シートの下に指をはさまないように注意



※車椅子のタイプによって，折りたたみ方のちがうものや，折りたためないものもある。

※車椅子を折りたたんだり，ひろげたり，あるいは，しまう時には必ずブレーキを完全にかけてから行う。

## 2 クラッチについて

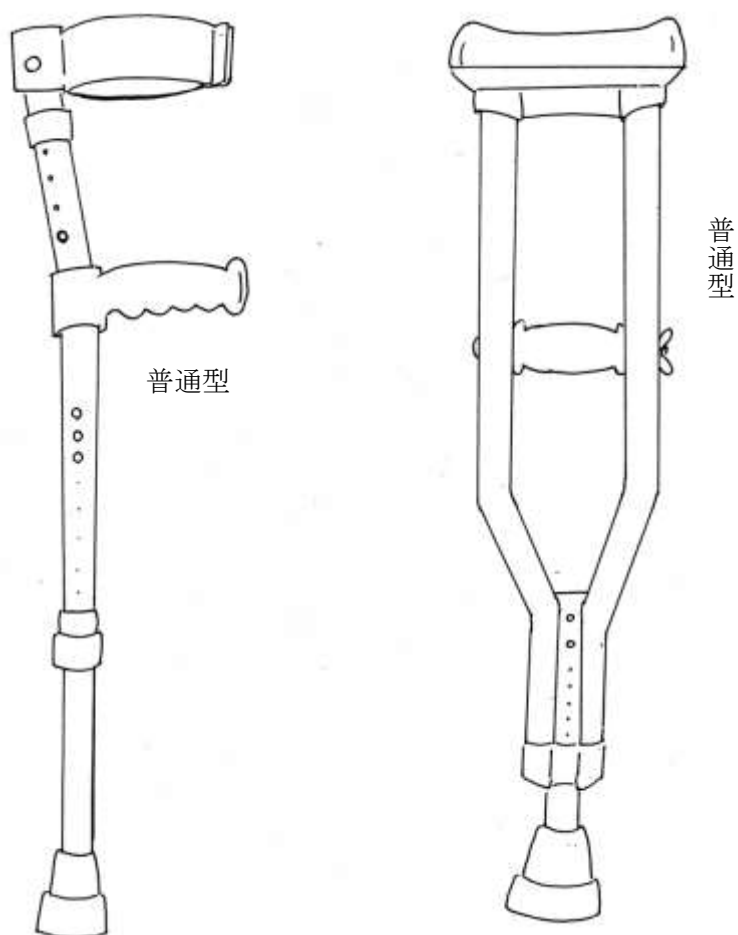
### (1) クラッチの種類

#### 1) ロフストランドクラッチ (下左図)

松葉づえに比べると短く、自分の座席に置けるので、手軽である。どこでも自由につくことができるが、前腕で支えるために上肢、体幹でバランスをとる必要がある。

#### 2) 松葉づえ (下右図)

上肢で荷重を支えることができるので、つえよりも下肢への負担を軽くすることができる。 ※普通型～伸縮が可能である



#### 3) Tステッキ

下肢の良い方にステッキを持ち、不自由な足と同時に出す。

## (2) クラッチの点検と修理

### 1) つえ先ゴムの点検, 交換

- ・すり減っていないか, また, 減り具合に偏りがある場合はつえ先ゴムを回して同じ場所がすり減らないようにする。
- ・つえ先ゴムは消耗品であり, 底ゴムの溝が見えなくなったらで交換する。
- ・外出時の前後は, 特に気を付ける。

### 2) 調節穴の確認する

- ・転倒したり, 乱暴に扱ったりすると, 調節穴から亀裂が入り, 体重をかけた時に, 折れる恐れがある。
- ・調節穴の留め具が壊れたり, なくなっていることもあるので, 注意する。

### 3) がたつきの確認

- ・肘当て, 脇当て, グリップ等のビスが壊れかかっていると, がたつきが出て, 歩行が不安定になる。
- ・ベルトのついているものは, マジックテープの利きが悪くなっていないかも点検する。

## (3) クラッチ歩行の仕方

※ロフトランドクラッチも松葉づえも, 基本的には歩行の仕方は同じである。

### 1) 四点歩行・・・・・・・・

右手(クラッチ)→左足→左手(クラッチ)→右足の順に手(クラッチ)と足を交互に動かして前進する。スピードは落ちるが, 安定性はある。

### 2) 二点歩行・・・・・・・・

右手(クラッチ)と左足を同時に前進させ, 次に左手(クラッチ)と右足を同時に前進させる。体重は動かない方の手と足で均等に支える。

### 3) 振り出し歩行・・・

両手(クラッチ)と両足を交互に出す。両手で両足を持ち上げ, つえの手前に振り出す。

### 4) 三点歩行・・・・・・・・

患側の足と両手(クラッチ)を同時に出し, 次に健足を出す。骨折や手術後などに患側を保護して歩く方法。

#### (4) クラッチ，松葉づえ使用上の注意

##### 1) 危険のない安定した歩行

あわてて歩くと歩行のリズムが狂い，悪い姿勢での歩行になることが多い。また，転倒することもある。訓練時だけでなく，普段から正しい歩き方をするように声かけする。

##### 2) 路面（床）の状態やつえ先ゴムの減り具合に注意

路面（床）が濡れていたり，でこぼこしていると，思わぬ転倒につながるので，常に路面（床）の状態に注意して歩くようにする。また，つえ先ゴムのすり減りの状態にも注意が必要である。

##### 3) 歩行時に必要な補装具の装着

クラッチを使用している児童生徒は，短下肢装具やヘルメット等を着用している場合が多い。補装具をきちんと装着しているか，補装具の状態は良いかなどの注意も必要である。

##### 4) 松葉づえ使用時の注意

脇の下で体重を支えると，腕がまひすることがある。松葉づえのグリップを握り，脇当てを脇でしっかりとはさみながら，手の力で支える。

※参考資料 理学療法（医歯薬出版） 脳性マヒの教育 No. 43



### 3 歩行器について

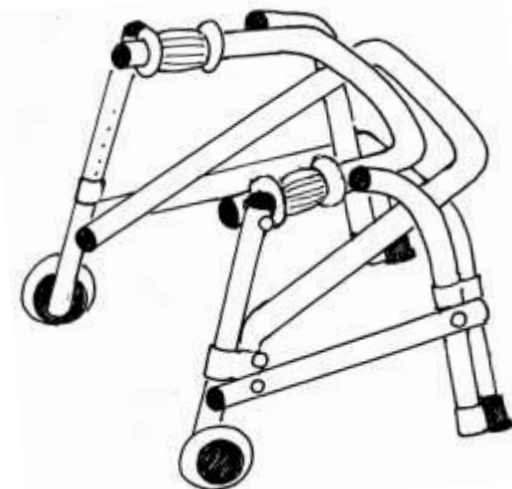


歩行器は、体重の免荷が容易で、安定性も良い。さらに、歩行時の不安を除く、活動性を高めるなどの精神面への効果もある。しかし、かさばるために狭い所や階段などでは使いにくい。脳性まひ（CP）用の歩行器には、サドル、テーブル、体幹指示装置を付けたもの（SRC Walker）や、後方バランスを介助するもの（PC Walker）もある。

#### **SRC Walker**

（Spontaneous 自発的 Reaction 反応 Control コントロール Walker 歩行器）

※前傾木馬型歩行器・・・前傾姿勢で身体を保持するサポートを備えた歩行器。



#### **PC Walker**

（Posture 姿勢 Control コントロール Walker 歩行器）

※姿勢制御歩行器・・・指示バーが側方と後方にあるので、重心位置が前方にかたよらない。そのため体重を後方にかけてやすく、直立姿勢が保ちやすい。

※参考資料

臨床心理学療法マニュアル（南江堂）

作業療法ジャーナル（三輪書店）「増大特集 テクニカルエイド」